

中上級日本語教科書における尊敬語の扱い —レル敬語と他の形式の使い分け—

高橋圭子・東泉裕子

要旨

中上級学習者向け日本語教科書 17 種類における尊敬語の扱いを、レル敬語と他の形式の使い分けという観点から調査した。その結果、敬意の度合いの相違に言及したものはあるが、使い分けを明示したものは見当たらず、形式の提示にとどまっていることがわかった。レル敬語の多用という使用実態を反映している可能性のある教科書もあるが、レル敬語に全く触れていない教科書もあった。コミュニケーションの現場では、人間関係、場面や状況など、さまざまな要因に応じた配慮表現の運用力が求められる。尊敬語においては形式に加え、運用力を育成できるような教育を考えていく必要があるだろう。

キーワード

配慮表現、尊敬語、レル敬語、日本語教科書、中上級

1. はじめに

配慮表現は、「相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられることが、一定程度以上に慣習化された言語表現」(山岡他 2018、p. 159)であり、日本語教育においては学習者が良好な人間関係を保てるよう、適切な指導が必要である。

日本語の配慮表現の特徴のひとつに敬語専用形式があり、そのうち尊敬語の形式の主なものは表 1 のようにまとめられる(文化庁 2007、p. 14; 菊地 2010、pp. 36-39 など)⁽¹⁾。だが、これらの形式の運用面における使い分けは必ずしも明確でない。特定形とナル敬語については、特定形がある場合はナル敬語は使わないとされている(菊地 1997、pp. 159-161; 菊地 2010、pp. 40-41; 野呂 2016 など)が、レル敬語の運用については論が分かれる。文化庁(2007、p. 50)、菊地(2010、pp. 38-39)、新田町(2018)などには敬意の度合いが最も低いレル敬語より特定形やナル敬語の使用が適切であるという記述がある⁽²⁾。一方、コーパスやアンケートの調査によれば、レル敬語が他の形式より多用されているケースもあり⁽³⁾、尊敬語の形式の使い分けに戸惑う学習者もいるという(高橋・東泉 2022 など)。レル敬語と他の形式の使い分けについて、日本語教育ではどのような指導が適切か、日本語教科書にはどのように記述されているか、調査の必要があると考える。

表 1 尊敬語の主な形式

呼称	表現(例)
特定形	いらっしゃる、おっしゃる、なさる、めしあがる
一般形	ナル敬語 お使いになる、ご利用になる
	レル敬語 読まれる、始められる

本研究では、以上のような問題意識に基づき、配慮表現の指導をめぐる基礎調査の一環として、日本語教科書における尊敬語の扱いをレル敬語と他の形式の使い分けという観点から調査する。

2. 先行研究

日本語教科書における尊敬語の扱いを調査したものには、安田（2010）、菅生（2021）、田邊他（2016、2020）などがある⁽⁴⁾。

安田（2010）、菅生（2021）はそれぞれ 5 種類、4 種類の初級教科書を調査したものである。これらのうち、計 3 種類の教科書がレル敬語を取り上げていない、という。その理由としては、受身や可能との混乱を避けるため、また、敬度の低いレル敬語を用いる必要性が外国語環境にある学習者には乏しいため、などと推測されている。また、レル敬語を取り上げている計 6 種類の教科書においても、形式の導入にとどまり、実際の運用における使い分けは明示されていない、という。

田邊他（2016、2020）は、「行く」などの尊敬語として実際に多用されているのはレル敬語だが、学習者向け初級日本語教科書は特定形の「いらっしゃる」を取り上げている、という齟齬を指摘している。

なお、初級終了レベル以上の教科書を調査した先行研究は、管見では見当たらない。

3. 調査対象および結果

本研究では、初級終了以上を中上級と呼び、このレベルの日本語教科書における尊敬語の扱いを、レル敬語と他の形式の使い分けという観点から調査する。このレベルでは、4 技能すべてを対象とする総合教科書に加え、技能別のものや、大学など教育・研究の場面におけるアカデミック・ジャパニーズ（AJ）、仕事の場面におけるビジネス・ジャパニーズ（BJ）を謳ったものなどがある。また、敬語を中心にしたものもある。

表 2 は、本研究で調査対象とした教科書および結果をまとめたものである⁽⁵⁾。調査結果を見やすくするため、敬語を中心とした「敬語」とそれ以外の「その他」に教科書を大別して示した。また、シリーズを構成しているものは合わせて 1 種類とカウントした。

「ジャンル」および「レベル」は原則として当該教科書の記載によった⁽⁶⁾。「略称」は本研究による便宜的なものである。なお、これらの教科書には日本・海外という学習環境の別が想定されているものはない。

調査対象とした教科書はいずれも、尊敬語の特定形やナル敬語の用例はあるが、レル敬語についてはまちまちである。そこで、表 2 の「用例」にはレル敬語の用例の有無を示した。また、「説明」にはレル敬語についての説明の有無を、「敬度」には「説明」における敬意の度合いの記述の有無を、それぞれ示した。レル敬語と他の形式の使い分けを明示した教科書は、今回の調査対象には見当たらなかった。

表 2 調査対象および結果

調査対象					結果		
	ジャンル	レベル	書名	略称	用例	説明	敬度
敬語	会話	初級後半 ～中級	外国人のための日本語敬語の 使い方基本表現85	使い方	○	○	○
	聴解	中級前半 以上	聞いて慣れよう日本語の敬語	聞いて	○	○	×
	会話・BJ	中級	新にほんご敬語トレーニング	トレーニング	○	○	○
	文法	上級	日本語文法演習 敬語を中心 とした対人関係の表現	対人関係	○	○	○
その他	総合	初中級・ 中級	中級へ行こう 中級を学ぼう 中級前期・中期	行こう	×		
		初中級・ 中級	まるごと 初中級・中級1・ 中級2	まるごと	×		
		初中級・ 中級	できる日本語 初中級・中級	できる	○	×	
		中級	みんなの日本語 中級I・II	みんな	○	×	
		中級	日本語中級J301・J501	J	×		
		中級	中級日本語カルテットI・II	カルテット	○	○	○
		中級～上 級	わたしの見つけた日本・日本 への招待・文化へのまなざし	見つけた	○	○	×
	会話・BJ	N3 以上	おもてなしの日本語	おもてなし	○	○	×
	話す・AJ	中級	アカデミックプレゼンテー ション入門	プレゼン	×		
	書く	中級以上	日本語Eメールの書き方	Eメール	○	○	○
	会話	中上級	ブラッシュアップ日本語	ブラッシュ アップ	○	×	
	会話	中級・上 級	日本語上級話者への道・日本 語超級話者へのかけはし	道	×		
	書く・BJ	上級	タスクで学ぶ日本語 ビジネ スメール・ビジネス文書	ビジネス	○	○	×

4. 調査結果の概観と分析

4.1 概観

「敬語」の教科書は4種類ともレル敬語の用例および説明を載せ、敬度についてもそのほとんどが触れている⁽⁷⁾。

「その他」の教科書は、13種類中8種類がレル敬語の用例を載せている。そのうち、レル敬語についての説明があるものは5種類、さらにその中で敬度に触れているものは2

種類である。レル敬語に全く触れていないものは5種類ある。

4.2 レル敬語についての説明

レル敬語について説明を施している教科書9種類（「敬語」4種類・「その他」5種類）は、形式の説明にとどまる5種類と、敬度の相違にも言及した4種類に大別される。

前者の例として『見つけた』（pp. 56-58）は、レル敬語を「受身形の敬語（passive forms used as honorifics）」と呼び、受身文との助詞の相違を説明し、(1)のような例文を示している。敬度の相違や使い分けへの言及はない。また、『おもてなし』におけるレル敬語は、ホテルのスタッフから宿泊客への(2a)のような会話文1例と、(2b)の説明のみである。これは、接客業従事者（学習者）から客にはレル敬語より敬度の高い形を用いるほうがよい、という判断や、「行く」については「いらっしゃる」より「行かれる」が多用されている（田邊他 2016、2020）という使用実態に基づくのかもしれない⁽⁸⁾。

- (1) 先生は論文を書かれました（=お書きになりました）。(『見つけた』 p. 57) ⁽⁹⁾
 (2) a. どちらのほうに行かれますか。(『おもてなし』 p. 72)
 b. 「行かれます」は「行きます」の尊敬の形です。「行きます」の尊敬語として、「いらっしゃいます」もあります。(『おもてなし』 p. 72)

後者の、敬度の相違についての記述には(3)～(6)のようなものがある。(6)は、レル敬語が広く使われていることに触れている。『Eメール』では、ことばづかいを相手や状況により(7a)のように3段階に分類し、(7b)のようにレル敬語は中程度、特定形は最も高い段階に位置付けている。ただし、いずれの教科書においても相手や場面、機能などによる形式の使い分けは説明されていない。

- (3) 「される」
 「する」の尊敬語、「なさる」のほうが「される」よりも敬意の度合いが高い。
 (『使い方』 p. 66)
 (4) かんたん尊敬語
 「お/ご～になります」よりていねいではありませんが、気軽に敬語で話したいとき使います。(『トレーニング』 p. 24)
 (5) 「れる/られる」は第1の形（「いらっしゃる」のような特別な動詞）や第2の形（ナル敬語）よりやや敬意の度合いが低い、しかし尊敬語ではある。
 (『カルテットI』 p. 212、原文英語、括弧内は稿者による補足)
 (6) 特別な形や「お・ご～になる」よりも敬度は低く、広く用いられている。
 (『対人関係』 p. 20)
 (7) a. *** 尊敬語・謙譲語が多く入った「です・ます体」
 ** 一部に尊敬語・謙譲語が入った「です・ます体」
 * 普通体 (『Eメール』 p. 20)
 b. 先生、日本に戻られるときにはぜひ連絡してください！**
 機会があったら、ぜひ香港にいらっしゃってください。*** (『Eメール』 p. 86)

4.3 レル敬語の用例

今回の調査対象においては、レル敬語の用例が計 71 例収集できた。そのうち、最多は「される」の 36 例であり、内訳は本動詞 12 例、漢語サ変動詞 24 例である。(8)は本動詞、(9)～(10)は漢語サ変動詞の例である。

- (8) ところで、お国の若者から力士になりたいと言われたら、どんなアドバイスを**されますか**。
(『みんなⅡ』 p. 104)
- (9) (取引先の岡村部長の机の上に、囲碁の大会で優勝したときの記念写真が飾ってあるのを見つけました) 大会で**優勝される**なんて、お強いんですね。
(『ブラッシュアップ』 p. 134)
- (10) (社内メール文例) **帰国されましたら**ホテルの様子を聞かせていただけますか。
(『ビジネス』 p. 19)

漢語サ変動詞の尊敬語の形式をコーパスに基づき調査した小椋 (2019)、高橋・東泉 (2017、2022) などによると、レル敬語「(ご)～される」が特定形「ご～なさる」やナル敬語「ご～になる」より多用されている、という⁽¹⁰⁾。日本語教科書におけるレル敬語の用例も、こうした実際の使用を反映しているのかもしれない。

ただし、今回の調査対象の教科書においては、相手や場面、機能などによる形式の使い分けは示されていない。たとえば、(11a)では採用試験の面接官から受験者(学習者)に、(11b)ではインタビュアー(学習者)からインタビュイーに、つまり立場として(11a)では上位者から下位者に、(11b)では下位者から上位者にレル敬語が用いられている。また、(11b)・(11c)は、同じ場面における同じ話者から同じ相手に対する発話として示されている用例だが、(11b)ではレル敬語「される」、(11c)では特定形「なさる」が用いられている。

- (11) a. 今回、当社の採用試験にどのような動機で**応募された**んですか。
(『トレーニング』 p. 116、p. 119)
- b. 特に**工夫された**ことについてお話を伺いたいんですが、…
(『トレーニング』 p. 135)
- c. 昔の衣装を参考**になさった**んですね。
(『トレーニング』 p. 135)

尊敬語の異なる形式がどのように使い分けられているのか調査し、教育に組み込んでいく必要がある。

5. 考察

先行研究によれば、初級日本語教科書では尊敬語の説明が十分にはなされていない(第2章)。本研究では中上級の日本語教科書を調査したが、結果は同様であった。レル敬語に全く触れていないものが初級にも中上級にもあるが、レル敬語の使用実態との齟齬は好ましいとは言えない。また、レル敬語に触れているものも、記述の中心は形式であり、実

際の運用における他の形式との使い分けは示されていない。

敬度の相違に触れたものはある。しかし、それだけでいいのかという疑問は残る。レル敬語には、敬度の低さを逆手にとり、特定形やナル敬語のもつ仰々しさを軽減し親近感を表すという効果もある（高橋・東泉 2022）。実際の運用に見られる多様な表現効果を学習者に示していくことも必要だろう。

尊敬語の形式も含め、配慮表現は、相手との親しさの度合い、場面や状況、相手への心理的負担などさまざまな要因によって使い分けられる（山岡他 2018、滝浦 2008 など）。初級の段階では、こうしたきめ細かな使い分けまでの指導は難しいかもしれない。しかし、中上級ではさまざまな要因に応じた運用力を積極的に育てる必要があると思われる。

6. おわりに

本研究では、尊敬語の形式の使い分けについて日本語教科書にはどのように記述されているか、調査した。しかし、コミュニケーションの現場に即した尊敬語の形式の使い分けを明確に示し、練習できるようにした教科書は、今回の調査対象においては見当たらなかった。

良好な人間関係を保つための配慮表現においては、相手や場面などの状況に応じて適切な形式を選び取る力が必要になる。尊敬語の指導にあたっては、形式に加え、こうした運用力を育成できるよう、考えていく必要があるだろう。

（高橋圭子たかはしけいこ・東洋大学）

（東泉裕子ひがしいずみゆうこ・東洋大学）

謝辞

本研究は、東洋大学人間科学総合研究所 2022 年度若手研究者支援研究チームによる研究成果の一部である。チーム・メンバーの堀恵子氏、原稿を丁寧に読み有益なコメントをくださったアドバイザーおよび編集委員会諸氏に感謝申し上げます。

注

1. 尊敬語の一般形には表 1 のほか、オ／ゴ～ダ・（オ／ゴ）クダサルもある。
2. 敬語の表すものは敬意のみではないが、本研究では便宜上「敬意」の語を用いる。また、配慮表現には地域差があり、レル敬語の使用が適切な地域もある（文化庁 2007、p. 50 など）。本研究の議論は東京語に基づく標準語についてである。
3. 「行く」については田邊他（2016、2020）、漢語サ変動詞については小椋（2019）、高橋・東泉（2017、2022）などがレル敬語の多用を報告している。高橋・東泉（2022）は現代の書き言葉・話し言葉のコーパスを調査したもので、本動詞「する」の尊敬語の計 69 例中 43 例、漢語サ変動詞の尊敬語の計 68 例中 63 例がレル敬語であるとしている。
4. 日本語母語話者を対象とした先行研究には野呂（2016）があり、日本語表現の教科書 10 種類の尊敬語の扱いを調査した結果、使い分けについて十分な記述のあるものはなかった、と報告している。
5. 中上級の日本語教科書には多種多様なものがあり、すべては網羅しきれないため、筆者らの勤務先（複数）および居住地の図書館に所蔵されているものは一般性が高いと考

- え、調査対象とした。教科書にはワークブックや教師用指導書など関連教材があるものも少なくないが、本研究では教科書本体のみを調査対象とした。
6. 表 2 の「ジャンル」の記述は、『プレゼン』は書名に、『おもてなし』は副題にある「接遇コミュニケーション」に基づく。『E メール』・『タスク』はインターネット・サイトでそれぞれ「writing」「作文」とあるのに基づく。
 7. 『聞いて』も教師用ガイドには敬度についての記述がある。
 8. 水谷 (2005) はアンケートや小説の会話文の調査から「いらっしやる」は「行く」の尊敬語としては使われなくなりつつあるとしている。
 9. 以下、用例におけるレル敬語はゴチック、特定形・ナル敬語は下線で示す。(1)の「書かれました」は原文では太字である。
 10. 「ご~される」は不適切な形式であるという指摘もある (文化庁 2007 など)。

調査資料

- 石沢弘子・新内康子・関正昭・外崎淑子・平高史也・鶴尾能子・土岐哲 (2016) 『改訂版 日本語中級 J 301—基礎から中級へ—英語版』 スリーエーネットワーク
- 小川誉子美・前田直子 (2003) 『日本語文法演習 敬語を中心とした対人関係の表現—待遇表現—』 スリーエーネットワーク
- 荻原稚佳子・齊藤眞理子・伊藤とく美 (2007) 『日本語超級話者へのかけはし—きちんと伝える技術と表現—』 スリーエーネットワーク
- 荻原稚佳子・増田眞佐子・齊藤眞理子・伊藤とく美 (2005) 『日本語上級話者への道—きちんと伝える技術と表現—』 スリーエーネットワーク
- 金子広幸 (2014) 『初級が終わったら始めよう 新にほんご敬語トレーニング』 アスク出版
- 国際交流基金(編著)・来嶋洋美・柴原智代・八田直美(著) (2015) 『まるごと—日本のことばと文化 初中級 A2/B1—』 三修社
- 国際交流基金(編著)・磯村一弘・藤長かおる・久保田美子・伊藤由希子(著) (2016) 『まるごと—日本のことばと文化 中級 1 B1—』 三修社
- 国際交流基金(編著)・磯村一弘・藤長かおる・伊藤由希子・久保田美子(著) (2017) 『まるごと—日本のことばと文化 中級 2 B1—』 三修社
- 近藤安月子・丸山千歌・有吉英心子 (2013) 『中級日本語教科書 わたしの見つけた日本』 東京大学出版会
- 近藤安月子・丸山千歌 (2008) 『中・上級日本語教科書 日本への招待 第 2 版』 東京大学出版会
- 近藤安月子・丸山千歌 (2005) 『上級日本語教科書 文化へのまなざし』 東京大学出版会
- 坂本正(監修)・安井朱美・井手友里子・土居美有紀・浜田英紀(著) (2019) 『4 技能でひろがる 中級日本語カルテット I』 The Japan Times
- 坂本正(監修)・安井朱美・井手友里子・土居美有紀・浜田英紀(著) (2020) 『4 技能でひろがる 中級日本語カルテット II』 The Japan Times
- 坂本恵・高木美嘉・徳間晴美(編著)・宇都宮陽子・福島恵美子・丸山具子・山本直美・吉川香緒子(著) (2023) 『聞いて慣れよう日本語の敬語—場面で学ぶ日本語コミュニ

- ケーション』スリーエーネットワーク
- 清水崇文 (2013) 『みがけ！コミュニケーションスキル 中上級学習者のための ブラッシュアップ日本語』スリーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク(編著) (2008) 『みんなの日本語 中級 I 本冊』スリーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク(編著) (2012) 『みんなの日本語 中級II 本冊』スリーエーネットワーク
- 清ルミ (2021) 『外国人のための日本語敬語の使い方基本表現 85—尊敬語から美化語まで—』Jリサーチ出版
- できる日本語教材開発プロジェクト (2012) 『できる日本語 初中級 本冊』アルク
- できる日本語教材開発プロジェクト (2013) 『できる日本語 中級 本冊』アルク
- 土岐哲・関正昭・平高史也・新内康子・石沢弘子 (2001) 『改訂版 日本語中級 J 501—中級から上級へ—英語版』スリーエーネットワーク
- 林千賀・羽鳥美有紀・齋藤貢 (2020) 『おもてなしの日本語一心で伝える接遇コミュニケーション 基本編—』アスク出版
- 平井悦子・三輪さち子 (2016) 『中級へ行こう—日本語の文型と表現 55—第2版』スリーエーネットワーク
- 平井悦子・三輪さち子 (2019) 『中級を学ぼう—日本語の文型と表現 56—中級前期 第2版』スリーエーネットワーク
- 平井悦子・三輪さち子 (2009) 『中級を学ぼう—日本語の文型と表現 82—中級中期』スリーエーネットワーク
- 三浦香苗・岡澤孝雄・深澤のぞみ・ヒルマン小林恭子 (2014) 『最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房
- 村野節子・向山陽子・山辺真理子 (2014) 『タスクで学ぶ日本語 ビジネスメール・ビジネス文書—適切にメッセージを伝える力の養成をめざして—』スリーエーネットワーク
- 築晶子・大木理恵・小松由佳 (2005) 『日本語 Eメールの書き方』The Japan Times

参考文献

- 小椋秀樹 (2019) 「書き言葉コーパスに見る尊敬表現—「お(ご)～になる」「お(ご)～なさる」をめぐって—」『日本語学』38(2), 22-31.
- 菊地康人 (1997) 『敬語』講談社学術文庫
- 菊地康人 (2010) 『敬語再入門』講談社学術文庫
- 菅生早千江 (2021) 「初級日本語教科書における「謙譲語の2分類」「尊敬語の使い分け」の扱われ方—「敬語の指針」(文化庁, 2007年)をどのように反映させているのか—」『目白大学人文学研究』17, 75-94. <<http://id.nii.ac.jp/1514/00001729/>> (2024年5月1日閲覧)
- 高橋圭子・東泉裕子 (2017) 「「お／ご～される」とその周辺」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』2, 123-132. <<http://doi.org/10.15084/00001513>> (2024年6月1日閲覧)

高橋圭子・東泉裕子 (2022) 「レル敬語をどのようにご指導されていますか—現代日本語コーパスに探る尊敬語の形式—」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』14, 35-43.

滝浦真人 (2008) 『ポライトネス入門』 研究社

田邊和子・金順任・倉持益子 (2016) 「若者における尊敬語の使用傾向と日本語教科書の記述について」『明海日本語』21, 35-51. <<https://urayasu.meikai.ac.jp/japanese/meikainihongo/21/meikainihongo21.pdf>> (2024年2月23日閲覧)

田邊和子・小池恵子 (2020) 「敬語の簡素化と明晰化—「いらっしゃる」と「いかれる」の教科書記述と使用実態について—」『国文目白』59, 98-115. <<https://jwu.repo.ni.ac.jp/records/3500>> (2024年2月20日閲覧)

新田町義尚 (2018) 「ビジネス敬語における新しい判断基準について(4)—「なる」から「なられる」への二重敬語型の派生と「-are-」接尾辞について(上)—」『大阪経大論集』69(1), 59-89. <https://doi.org/10.24644/keidaironshu.69.1_59> (2024年5月1日閲覧)

野呂健一 (2016) 「日本語表現教科書から見る敬語指導の問題点」『高田短期大学キャリア研究センター紀要・年報』2, 33-40. <<https://www.takada-jc.ac.jp/files/activity/career/kiyou2/3.pdf>> (2024年2月12日閲覧)

文化庁 (2007) 『敬語の指針』 <https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai_6/pdf/keigo_tousin.pdf> (2024年3月31日閲覧)

水谷美保 (2005) 「「イラッシャル」に生じている意味領域の縮小」『日本語の研究』1(4), 32-46.

安田矩子 (2010) 「日本語教育における敬語—その捉え方と教材分析による敬語教育の考察—初級日本語教科書から—」『言語コミュニケーション文化』8(1), 169-189.

山岡政紀・牧野功・小野正樹 (2018) 『新版 日本語語用論入門—コミュニケーション理論から見た日本語—』 明治書院

参照 URL

スリーエーネットワーク 「『聞いて慣れよう日本語の敬語—場面で学ぶ日本語コミュニケーション—』 教師用ガイド」 <<https://www.3anet.co.jp/np/resrcs/334000/>> (2024年5月1日閲覧)

東泉裕子 「活動報告『アカデミック・ジャパニーズおよびビジネス・ジャパニーズにおける配慮表現の基礎調査』」『東洋大学人間科学総合研究所 2022 年度活動報告』, 36-46. <<https://drive.google.com/file/d/1azDNRQv6QAx9dvcUwIsdQ8TZMSgDDqz9/view>> (2024年6月12日閲覧)